こうくうきじょういんようせいしょ
航空機乗員養成所

72.5 ㎝×50.5 ㎝

応募資格は本科生が、11 歳から 13 歳の者で、国民学校初等科修了以上の者。修業年数は 5 年間。

操縦士は、16 歳から 18 歳の者で中等学校第３学年修了以上の者。修業年数は１年間。

りくぐんしょうねんひこうへい　そうじゅう・ぎじゅつ・つうしん

陸軍少年飛行兵（操縦・技術・通信）

陸軍航空本　昭和 18 年(1943)年

73 ㎝×51.5 ㎝

願書受付が(昭和 18 年)４月１日から６月 30 日。

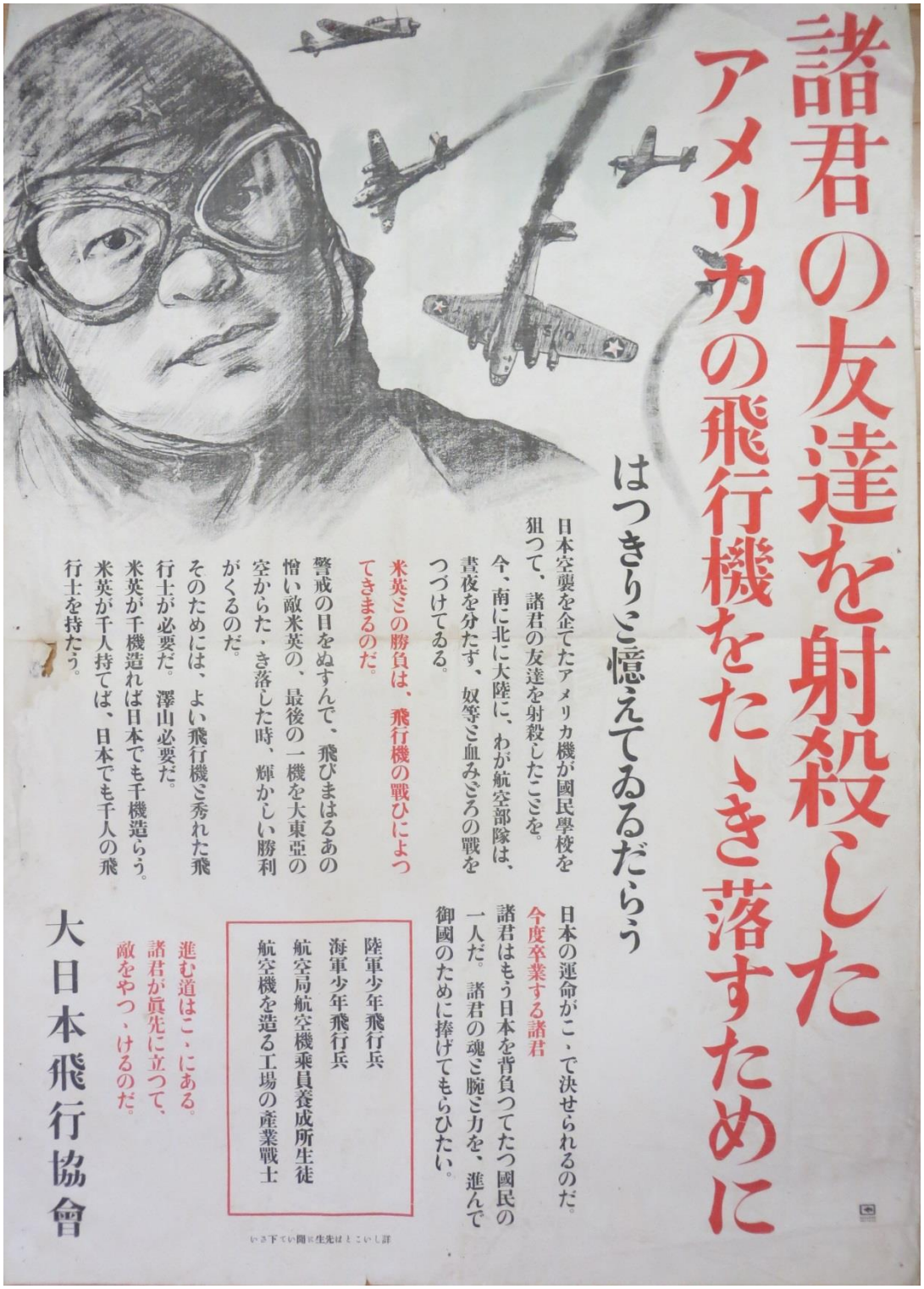
応募資格年齢は、14～17 歳。

入校月日は、昭和 18 年 10 月 1 日。

諸君の友達を射殺したアメリカの飛行機をたたき落とすために

大日本飛行協会　昭和 18 年(1943)年

102 ㎝×72.5 ㎝



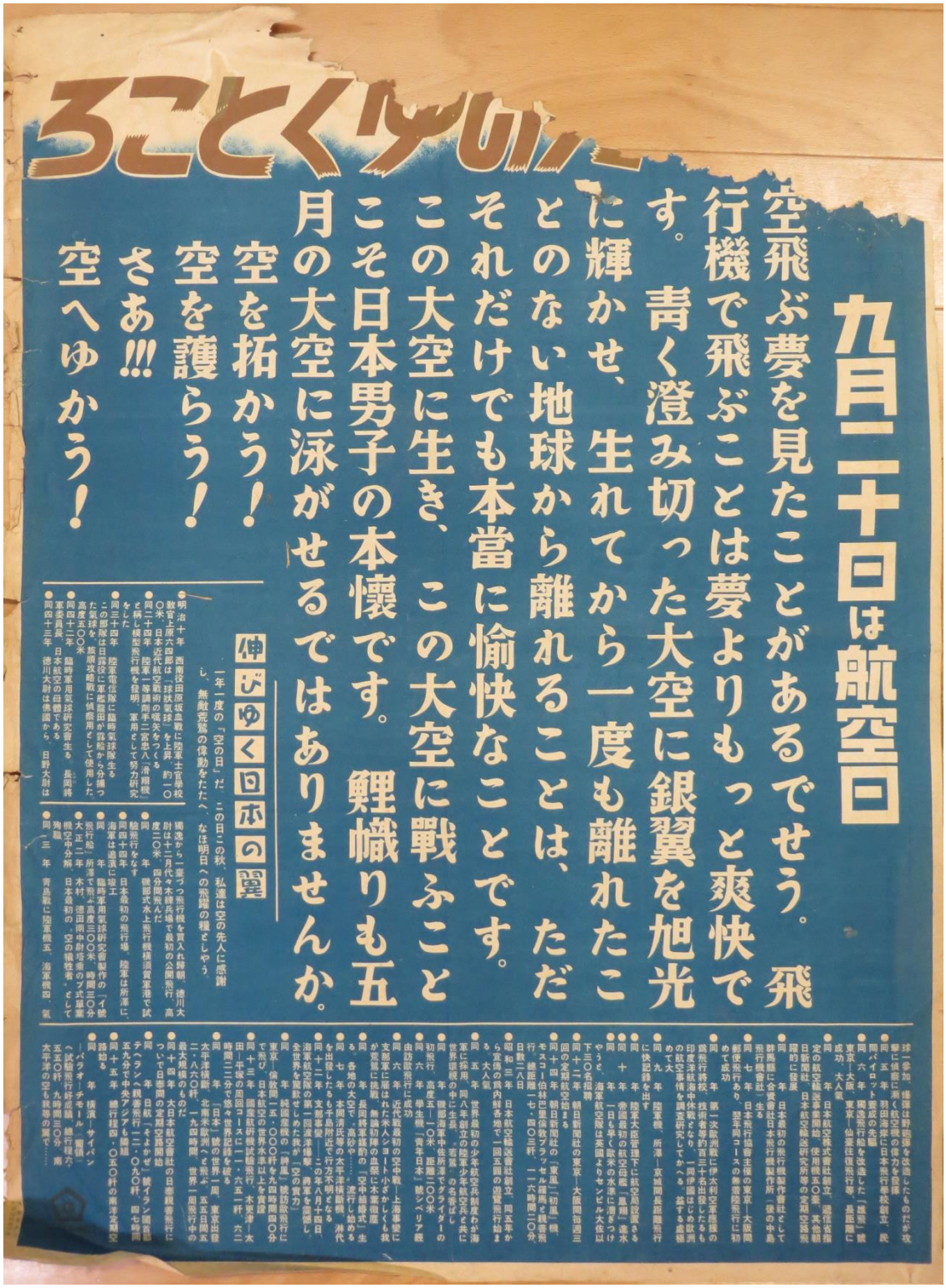
空だ男のゆくところ

藤田嗣治　情報局　昭和 16 年(1941)

76 ㎝×57 ㎝

本ポスターは半分に切り離された状態で、失われた右側半分には、少年が大きな模型飛行機を飛ばす様子が描かれています。絵は洋画家・藤田嗣治が手がけました。

航空日は、昭和 15 年より開始され、官民が協力して航空大会、グライダー大会、航空功労者表彰式、講演会、論文募集、標語募集、展覧会、演奏会などさまざまな行事が行われました。現在でも 9 月 20 日は「空の日」としてさまざまな催し物が開催されています。



青少年義勇軍

起てよ興亜の健児

北辺の鎮護と食糧の確保は我等の手で

石川県　石川県翼賛壮年団　石川県教育会

72.5 ㎝×51 ㎝

満州の開拓と国防強化、さらには国内における社会問題の解決策としても意図された大規模な植民的移民方策としての満蒙開拓青少年義勇軍の募集が昭和 13 年(1938)から行われました。義勇軍への応募資格は、尋常小学校の課程を終えた数え年16 歳から 19 歳の青少年でした。

彼らは茨城県水戸市内原町にある訓練所で訓練を受け、満洲へ旅立ちました。全国から 5,000 人の少年たちが集められましたが、石川県は全国で 3 位の 1,081 人に上ります。

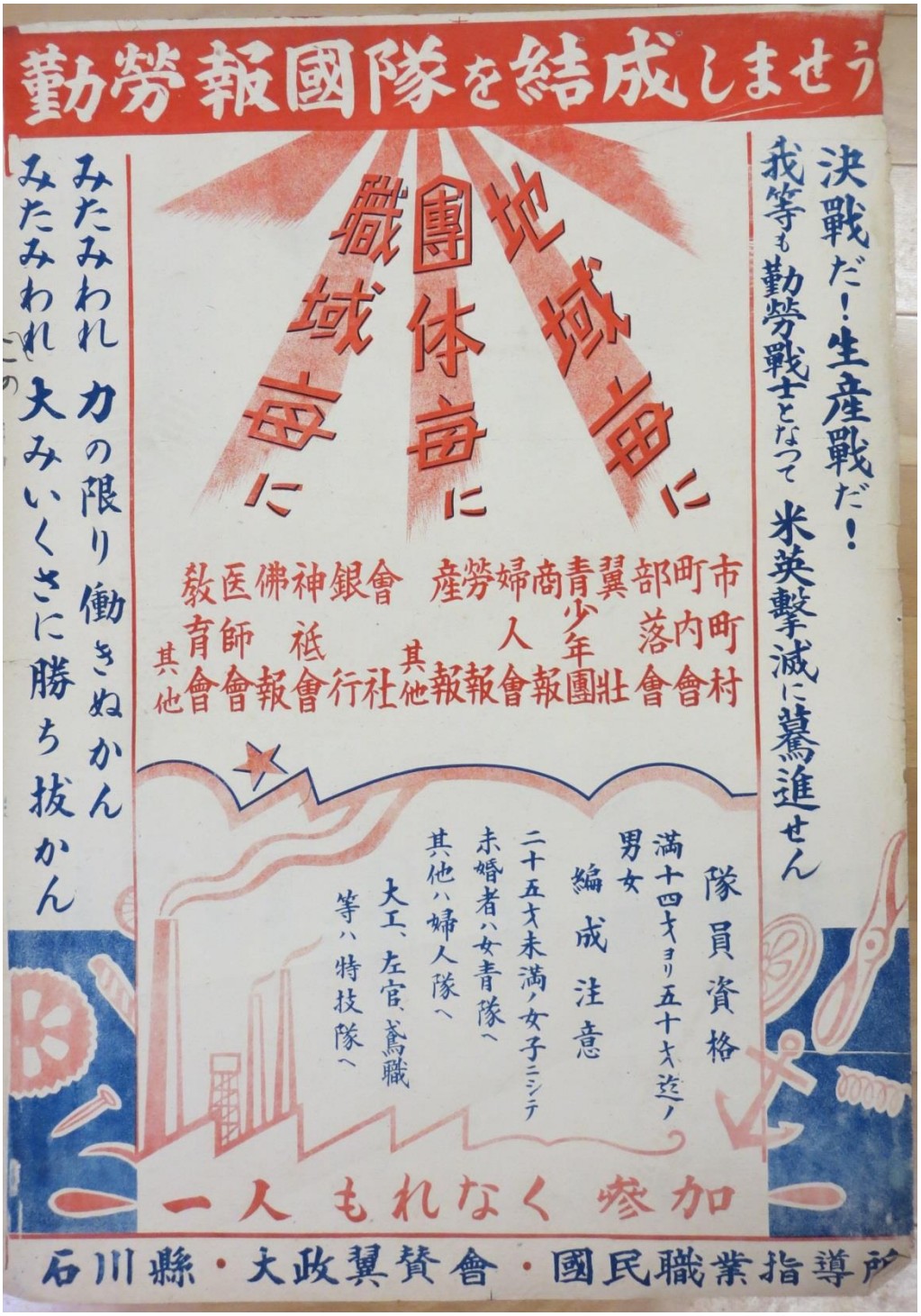
全国でも内原訓練所の建物「日輪舎」を模した訓練所が建てられ、中能登町内においては昭和 15 年、滝尾村(現、井田)に建てられました。

きんろうほうこくたい　けっせい
勤労報国隊を結成しませう

石川県　大政翼賛会　国民職業指導所
76.5 cm×54 cm

戦時中、従来の雇用労働者を対象とした対策だけでは労働力の確保が困難なため、一般国民による勤労報国隊を編成し、総動員業務に協力させました。

厚生大臣、または都道府県知事から、市町村長や団体の長などに編成の命令が出されました。



まごこころに襷（たすき）をかけて

援護（えんご）にも示（しめ）せ日本（にほん）の底力（そこぢから）

軍事保護院　都道府県　軍人援護会

72 ㎝×51.5 ㎝

ポスターの発行元の軍事保護院は、昭和 14 年（1939）7 月に設置されました。

傷ついた軍人の医療保護、職業訓練、雇用斡旋、職業保護など一連の援護を担いました。

送れ心の弾丸 慰問文

逓信省　陸軍省　海軍省　大政翼賛会

73.5㎝×51㎝

発行元の逓信省は、郵便・貯金・保険・電信・電話の事業などを行っていました。

戦時中、逓信省は軍事郵便を通じて前線の兵士をねぎらい、励ますことを期待し、軍事郵便週間を設け、日本から戦地への軍事郵便の送付を呼びかけました。

興亜運動強化教員大会

大政翼賛会

72.5㎝×51.5㎝

昭和 18(1943)年 5 月に政府は大東亜戦争の進展にともない、国民と共に興亜運動を一元化し、さまざまな事業を展開しました。

※興亜：アジア諸国の勢力を盛んにすること。

石川県では、金沢市公会堂にて、興亜運動強化教員大会(北陸地区)を開催し、特別講演に金沢出身の永井柳太郎を講師に招きました。

永井(1881 - 1944)は、早稲田大学教授を経て、大正 9 年(1920)衆議院議員となり、以後、連続当選 8 回。この間、民政党の政務調査会長、幹事長、拓務相、逓信相などに就任。昭和 15 年(1940)民政党即時解散を主張して脱党、以降、大政翼賛会、翼賛政治会などで常任総務を務めました。

二百三十億貯蓄完遂へ
貯蓄する　撃つ！勝つ！築く！

大橋正　大蔵省、道・府・県　昭和17年(1942)

72㎝×51.5㎝

大蔵省は日中戦争が開戦となって約1年となる昭和13年(1938)11月に初めて「貯蓄奨励運動」を実施しました。各自治体や金融機関に対して、目標金額が設定され、それを上回る貯蓄を獲得することが強く求められました。

日中戦争は予想を上回り長期化し、戦費はかさみ続けました。

そのため政府は、昭和17年(1942)６月19日～25日に、貯蓄目標額を80億円から230億円に引き上げる「貯蓄強調週間」を実施しました。

本ポスターには、日本が南進していた東南アジア地域が描かれています。ヤシの木やゴムの木と共に石油を掘削するための櫓、それらを輸送するための船舶が描かれています。日本は天然資源の獲得をねらっていました。

ポスターのデザインは大橋正(1916ー1998)。京都出身。第二次世界大戦後に活躍したグラフィックデザイナー。

270億円　貯蓄総攻撃！

大政翼賛会
74.5㎝×52㎝
期間：12月1日～12月31日

よくあたる弾丸切手（だんがんきって）

昭和 17 年(1942)

72.5 ㎝×51.5 ㎝

弾丸切手（＝戦時郵便貯金切手）は、割増金付き郵便貯金の債券のことで、逓信省は、昭和 17 年(1942)６月８日から郵便局で発売しました。販売促進のため、抽せんくじも付き、１枚あたり２円で発行し、割増金(懸賞金)は１等 1000 円でした。買うことで弾丸の資金になること、弾丸のようによく当たるということでそう呼ばれました。

大東亜戦争 必勝不敗の備へを固めよ！

まづ鉄銅の総動員

大政翼賛会石川県支部

53.5 cm 68 cm

日本軍の太平洋・東南アジア周辺を侵略する姿を漫画で伝えています。

落下傘で降り立つ日本軍が見据える国々には、その国で獲れる資源が記されています。

「掲示グラフ 第213号」 われらは海の子

(株)大日本雄弁会講談社　昭和 18 年(1943) 6 月

54. 4 cm × 76 cm

だいさんじゅうななかいりくぐんきねんびさんがつ１０か

第三十七回陸軍記念日三月十日

中村研一　陸軍省　昭和 17 年(1942)年

83 ㎝×59 ㎝

陸軍記念日とは、日露戦争において奉天大会戦（瀋陽）での日本軍勝利を記念し制定されました。明治 39 年(1906)が第 1 回目となります。

護(まも)れ傷兵(しょうへい)

中村研一　軍事保護院　昭和 15 年(1940)

軍事保護院は昭和 14 年(1939)、日中戦争の新たな段階に対処し、軍人援護の徹底強化を図る目的で、厚生省外局として設置されました。その業務は、①戦闘や公務で負傷、又は疾病にかかった軍人、及びそれに準ずる者（傷痍軍人）の療養・職業保護、②戦闘や公務で戦病死した軍人、及びそれに準ずる者の遺族（軍人遺族）の援護、③戦闘や公務に従事する軍人、及びそれに準ずる者の家族（軍人家族）の援護でした。

こくみんちょちくしんもくひょう２７０おくえんことし　りっぱ　ひきうけよう

国民貯蓄新目標270億円今年も立派に引き受けよう

大政翼賛会

74.5㎝×52㎝

期間：12月1日～12月31日

こう あうんどうきょうかきょういんたいかい
興亜運動強化教員大会

大政翼賛会
72.5㎝×51.5㎝
昭和 18(1943)年 5 月に政府は大東亜戦争の進展にともない、国民と共に興亜運動を一元化し、さまざまな事業を展開しました。
※興亜：アジア諸国の勢力を盛んにすること。
石川県では、金沢市公会堂にて、興亜運動強化教員大会(北陸地区)を開催し、特別講演に金沢出身の永井柳太郎を講師に招きました。
永井(1881 - 1944)は、早稲田大学教授を経て、大正 9 年(1920)衆議院議員となり、以後、連続当選 8 回。この間、民政党の政務調査会長、幹事長、拓務相、逓信相などに就任。昭和 15 年(1940)民政党即時解散を主張して脱党、以降、大政翼賛会、翼賛政治会などで常任総務を務めました。